

私にとっての、神戸シルバー大学院（SGS）の意味

第3の人生に入り、在職中の旧世界を完全脱皮したいと願っていた。

我々世代の全員がそうであったように、旧世界のモーレツ社会を過ごしてきた私にとっては、国内はもちろん世界に広く、厳しい中でしたが楽しさを覚えながら過ごしてきた。そのため、広い世界ではあったが、特定の旧世界（業界）の中の話であり、世間には、自分の知らない様々な世界があることを強く認識するようになった。第3の人生を機に、新たな世界を知りたいと願うようになった。

当初は、それが、どこにあるのか、さっぱりわからず、たまたま巡り合ったのが神戸市シルバーカレッジ（KSC）であり、希望コースを落選し生活環境コースに入りました。

世間から言えば、これも新たな世界の一つにすぎませんが、結果的に新しい世界を提供していただき、多くの優れた友人を知り、ある意味ですくわれたような思いを持った。

そして、今では、在職中の旧世界を完全に脱皮できたと思っています。

現在は、KSCで3年間を過ごし、当SGSに入学して、もはや4年が過ぎた。SGSはKSCの卒業生が対象であり、6年間の在籍が可能で、合計9年間、学びを続けることができる。これは子供たちの義務教育の中学までと同じ期間ということになる。

SGSは「さらに学んで、次世代のために」というモットーであるが、この歳になって、何でいまさら、さらに学んでなのかという疑問も湧くかもしれません。新たな世界を学んで知り、何らかの活動を継続すること、そのことで、元気でいること、それ自体が次世代のためになる。日本の医療費は37兆円になんなんとするそうです。少子高齢化の中で、一体、だれが払い続けられるのでしょうか。

さて、幸いにして、SGSでも良師と素晴らしい友人に巡り合え、元気でいれば、何か活動をしたくなる、身体も動かしていきたい、さらに、学んだことを次世代に伝え、また活動することが、自分自身と次世代にかかわれるようになれば、なおさら幸せなことではないだろうか。

わたくし自身は、農業の経験は全くありません。強いて言えば、KSCの有機栽培研究会で、人生初の鍬を持ったことくらいです。そもそも、日本の食糧生産の世界で、何が起きて、何が問題なのか、着眼点はどこなのか、全く他人事でした。

食糧自給率40%、農漁業の疲弊、なぜなんだろう。高齢化だけが問題なのか、若者が農業に魅力を感じないのはなぜだろう。派遣が急増、それでも農業には来ない。グローバル化やデフレのなかで、価格の低下、やっていけない、というのが実態だろうか。市場のセリや流通の仕組み、関連するだろうな。

さらに、関連していけば、地球温暖化などは地球環境の大変化の予兆のようなもので、農業、漁業に大いにかかわってくるものでしょう。お米の品質への関わりはどうなっているのだろうか。

ああ、大変だ！温暖化の知識も調べたいなあ、大気はどうなっているのだろうか。すると、草木、虫の世界や鳥の世界も変化してきていると聞く、虫や鳥も、食糧生産と関わりがある。おっと、まてよ、イノシシやシカの獣害が増えていると聞く、なぜ増えているのだろうか、調整はなぜできないのだろうか、アライグマが文化財に被害を、セアカゴケグム、これも関連するのかなあ。

児童館や学童保育コーナーというのがあった。これも、実は知らなかった。幼稚園と保育園、なにが違うのか。次世代のために活動の対象ではないのかなあ。

知らない世界、知りたい世界、「とんで、とんで、とんで〜」という歌がある。関連づけていけば、私の頭の中は、まさに、「とんでとんで」です。

このような刺激、これの活動の場、友人作り、グループ作りを提供してくれるのが、私にとってのSGSです。

院生諸兄姉は、それぞれ異なった、様々な、ご自身にとってのSGSがあろうかと思えます。

活動経験もおありでしょう。楽しみにしています。投稿を、、、

—了—